

部・委員会名	委員長	北原千枝子	(大下条小学校)
特別支援教育委員会	副委員長	竹村 信之	(飯田養護学校)
(委員数 8名)	会計	竹村 信之	(飯田養護学校)
	記録	大原 容子	(飯田養護学校)

研究テーマ	特別な支援が必要な児童生徒が主体的に取り組み、自己肯定感を高めることのできる授業づくり～「個別の指導計画」を活かした単元展開と評価～
研究内容 (箇条書き)	<p>児童生徒が願いをもち主体的に取り組む姿を引き出すための「個別の指導計画を活かした単元・授業づくり(単元デザイン)のあり方」を探るとともに、児童生徒が達成感をもち自己肯定感を高めることのできるための「相互評価・自己評価のあり方」を探る。</p> <p>視点1 「個別の指導計画」に基づいた単元・授業づくり(単元デザイン)</p> <p>①「可能性の芽」を活かした題材選定・単元展開の工夫 ②「できた」「わかった」につながる支援(できる状況づくり)</p> <p>視点2 学び合い</p> <p>①願いの共有 ②友だちの良さの認め合い</p> <p>視点3 高まりを自覚する評価活動</p> <p>①自己肯定感を高める評価活動 ②他者理解を広める評価活動 ③教師自身の指導観と児童生徒理解変化の振り返り</p>
成果と課題 (箇条書き)	<p><成果></p> <p>○手順表、ベルの合図など、「できる状況づくり」や、ポップコーン作り・試食会という興味関心のある活動の繰り返し、見通しをもち、自信をもって自分の役割を果たしたり、自分の思いをはっきり伝えたりする姿につながった。(視点1)</p> <p>○めあての確認の場面で、子ども同士で評価する場面を取り入れたことでお互いの姿への意識をもつことにつながり、さらに、振り返りの場面での相互評価にもつながった。(視点2、視点3)</p> <p>○終末の振り返りの場面での評価も大切だが、活動中のその場その場での評価(言葉、サイン、教師の表情等)こそが、子どもたちの安心や自信につながっていた(教師による評価、子ども同士の評価ともに)。(視点3)</p> <p><課題></p> <p>・子どもの実態、願いの的確な把握→「個別の指導計画」を活かした単元・授業づくり、「可能性の芽」を活かしたできる状況づくりについて、引き続き研究していく。</p> <p>・児童生徒が「自己理解」を深め「自己肯定感」を高めるための支援のあり方。集団とのかかわりの中で自己肯定感を高めるための支援のあり方。</p>
公開授業	平成29年11月10日(金) 阿南町立富草小学校 相談学級2組 単元名「バザーに向けて、商品をいっぱい作って全部売ろう」 授業者:山田 涼 教諭 指導者:湯澤正農夫先生 参観者11名(一般2名)
他 諸活動 研修会 講演会	<p>1 夏季研修</p> <p>(1)実技講習会 7月28日(金)場所:喬木村福祉センター 参加者77名 内容:「WISC-IV検査法」検査法(基礎編), 活用法(応用編) 講師:吉澤智子先生(AIH相談室), 大平正弘先生(伊賀良小学校)</p> <p>(2)講演会 8月2日(水)午前 場所:豊丘村 ゆめあて 参加者75名 演題:『高等学校における特別支援教育の実際』 講師:箕輪進修高校 特別支援教育コーディネーター 北原 恵美 先生</p> <p>(3)施設見学 8月2日(水)午後 見学場所「アンサンブル松川」 参加者38名</p> <p>2 教育課程研究協議会午後の運営 期日:10月20日(金) 場所:山本小学校</p>

研究
冊子作成
など

研究協議①「長野県教育委員会からの説明」

指導者 南信教育事務所指導主事 北澤 英和 先生

研究協議②『LD棟通級指導教室についての情報提供』『テーマ別グループ協議』

3 長野県特別支援教育研究連盟下伊那支部事業への協力

(1) 県特連大会 7月31日(月) 上伊那大会…伊那市生涯学習センター

(2) 特別支援教育担当者会・県特連支部定期総会 5月26日(金)下伊那教育会館

4 郡総合作品展覧会

期日 11月5日(日)～7日(火) 場所 丸山小学校